

音を聞き分ける力は「脳」が補います。

補聴器にできることは音を大きくすること。

補聴器は「自分に足りない音を大きくする」「騒音の中で言葉だけ聞き取りやすくする」など自分の聞こえに合わせて音を大きくすることができますが、聞き分けをはっきりとよくすることはできません。音を聞き分ける力は徐々に「脳」が補います。補聴器を使って「耳と脳のリハビリ」を行い、トレーニングしましょう。



補聴器の練習(脳のトレーニング)

聞こえが悪くなると、脳が萎縮し「難聴の脳」になっていきます。補聴器を使った会話は、「難聴の脳」となった脳の機能をもう一度使うこと。補聴器を使うことは「耳と脳のリハビリ」で、以下のことが大切になります。



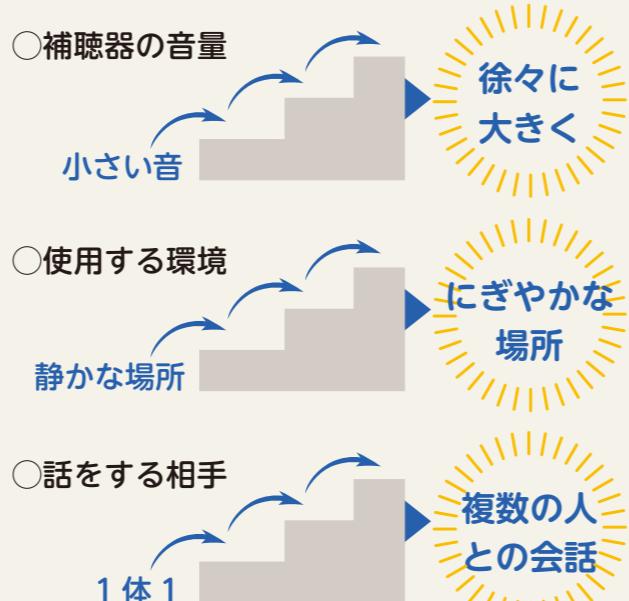
◎常時使用する

付いている時間が短いと脳が変化しないので、朝起きてから寝るまでの間、常に補聴器を付けましょう。

◎最低3ヶ月つける

3ヶ月続けることで、「難聴の脳」が変化し、補聴器が使い続けられるようになります。途中でやめてしまうと脳が変化しません。

◎段階を経て調整する



ワンポイントアドバイス!

最初は小さな音でもうるさく感じますが、そこを頑張るとよい補聴器調整ができます。

監修：日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会山梨県地方部会 補聴器キーパーソン

参考：新潟県版パンフレット「正しく知ろう耳の聞こえと補聴器」

発行者：山梨県福祉保健部 健康長寿推進課

正しく知ろう 耳の聞こえと 補聴器



聞こえのチェック

年齢を重ねるとともに「聞こえ」は少しずつ悪くなります。ゆっくりと変化するため、ご自分では気がつかないこともあります。聞こえについて確認してみましょう。当てはまるものに✓を付けてください。

-
- 会話をしているとき、聞き返すことがよくありますか。
 - 相手の言った内容を聞き取れなかったとき、推測で言葉を判断することができますか。
 - 電子レンジの「チン」という音や、ドアのチャイムの音が聞こえづらいと感じことがありますか。
 - 家族に、「テレビやラジオの音量が大きい」とよく言われますか。
 - 大勢の人がいる場所や周りがうるさい中の会話は、聞きたい人の声が聞こえづらいと感じますか。
- 1つでも当てはまつた方
当てはまつた方
中面Aへ
中面Bへ